



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第31主日 C年(2022年10月30日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：知恵の書 11章22節—12章2節

第二朗読：テサロニケの信徒への手紙二 1章11節—2章2節

福音朗読：ルカによる福音書 19章1—10節

救いたい主、救われない人

福音朗読に注目しましょう。イエスさまのエルサレムの旅はまもなく終わろうとしています。エリコはヨルダン川西岸、死海の北の端からおよそ9.5km、エルサレムから東方およそ20kmに位置する町です。ガリラヤからサマリア地方を避けてエルサレムへ向かう場合には、最後に通過する町となります。この町は神の民としてのイスラエルが、エジプトを脱出して40年間さまよった末、ようやくヨシュアに率いられて「約束の地」に入る前に最後の戦いをした場所でした。ですから、エリコはイエスさまの旅の最後の通過地であるばかりではなく、神さまの救いの約束が成就することと結びつく町なのです。

イエスさまはエルサレムで、十字架の出来事によって神さまの救いの約束を成就なさいます。エルサレム入城直前のエリコの町で起こったザアカイのエピソードは、差し迫った救いの出来事を意識させるものではないでしょうか。今日の福音朗読の直前に「エリコの近くで盲人をいやす」話があります(18章35-43節)。「イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた」(35節)で始まるこの話は、盲人で、とても貧しい人が救われる出来事を語ります。それに続いて「徴税人の頭で、金持ち」(19章1節)であるザアカイの救いの出来事を語っています。福音書の読み手であるわたしたちは、貧しい者の救いと金持ちの救いの出来事に会って、イエスさまの十字架による救いがすべての人に及ぶことを味わいます。

また、「金持ちと貧しいラザロ」の物語(16章19-31節)、そして「金持ちの議員」の物語(18章18-30節)と続きますが、イエスさまは「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(25節)とおっしゃって、財産があっても、この世で何の不自由もなく生きていける人間の救いの問題が取り上げられています。どちらの物語もイエスさまの呼びかけを聞くようにと促されています。しかし、金持ちが救われるかどうかは不確かなまま、イエスさまはエルサレムへの旅を続けます。

今日の福音朗読で、神さまとの交わりが断たれていると人々から思われていた徴税人の代表であり、しかも救われることが難しいとイエスさまに言われた金持ちのザアカイにも救いが訪れるのです。

5節を心に留めてください。「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。』」まず、「その場所」という表現です。ギリシア語では「トン トボン」となっていますが、冠詞がついています。イエスさまとザアカイは偶然に出会うのではなく、しかも、どこでもよい「どこか」で出会うではありません。ほかでもない「その場所」で出会うのです。冠詞をつけて、この出会いが必ず起こるべき出会いであることを表しています。この点でフランシスコ会訳はあまりよい翻訳ではないかもしれません。「イエスはそこを通りかかると、見上げて仰せになった……」(5節 フランシスコ会訳)となっています。

次に、「今日」が大切になります。『ルカによる福音書』にとって「今日」という表現は重要です。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」(2章11節)と天使たちは幼子イエスさまの誕生を羊飼いに告げ知らせます。「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(23章43節)と十字架のイエスさまは、同じように十字架にかけられた犯罪人に語ります。救いはまさに「今日」実現しているのです。しかもイエスさまとともに実現していくのです。

かつて語られた神さまの救いの約束は「今日」、「ここに」実現します。イエスさまとザアカイの出会いには偶然なものではなく、人がいのちを得て再び生きようと心をくだいた神さまが救いを成就させた結果なのです。

第三に「ぜひあなたの家に泊まりたい」は印象的な表現です。直訳すると「泊まらなければならない」となります。フランシスコ会訳は「ザアカイ、急いで下りてきなさい。今日、わたしはあなたの家に泊まるつもりだ」(5節 フランシスコ会訳)となっています。岩波書店の訳では「ザアカイオスよ、急いで降りて来なさい。私は今日、あなたの家に留まらねばならないから」(5節 岩波訳)となっています。「泊まらなければならない」では義務の意味を理解されてしまいますが、ここでは必然性を表しています。「泊まることになっている」の意味で考えたらよいでしょう。イエスさまとザアカイの出会いは神さまがなされた必然的な出来事なのです。

ところで、3節と10節を比較してみてください。3節はギリシア語の原文を語順通りに並べてみると、「そして 彼は求めていた 見ることを イエスを どんな人で あるかを」となります。「求めていた」はギリシア語で「ゼーテオー」ですが、同じ動詞が10節「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」にも登場します。原文を語順通りに並べてみましょう「来た から 子は 人の 求め そして 救うために 失われたものを」となります。

「徴税人ザアカイ」の物語は、このようにイエスさまを見ることを求めるザアカイと、失われたものを救うために求めるイエスさまとの出会いの物語です。どちらも「捜し求めて」いたのです。